

いわき産コシヒカリ『Iwaki Laiki』(いわきライキ)

●「一山一家(ひとつの山はひとつの家族)」の精神
●いわきの米づくりはフラガールとともに立ち上がる!

福島県いわき市の米づくりは、フラガールとともに立ち上がる。「Iwaki Laiki(いわきライキ)」は、いわき産コシヒカリのブランド米。原発事故後の風評の払拭とイメージアップを図るため、平成26年産からいわき産米の全量全袋検査を行っているいわき地域の恵み安全対策協議会(市と集荷業者・卸等で構成)が商品化した。「ライキ」とは、ハワイの言葉で「神聖な食べ物である米」を意味する。



▶いわき産コシヒカリ『Iwaki Laiki』



▶昭和30年代のいわき市の炭鉱の様子(常磐炭田史研究会提供)

「東北の湘南」や「東北のハワイ」と呼ばれ、米どころ東北地方でも温暖で全国有数の日照時間を誇



▶スパリゾートハワイアンズ創業当時の「フラガール」

る同市には、かつて本州最大級の炭鉱として戦後日本のエネルギーを支えた『常磐炭鉱』があった。しかし、昭和30年代、エネルギーが石炭から石油に替わり、『常磐炭鉱』は閉山に追い込まれる中、湧き出す温泉を利用した温泉リゾート施設(現・スパリゾートハワイアンズ)を作



▶東日本大震災の地震により被害を受けた米の保管倉庫

イアンズ)を作り上げ、炭鉱から観光へといわき市のピンチを救ったのがフラガールだった。あれから約50年、東日本大震災、原発事故によって、同市の農産物等は困難な状況に立たされた。米については、全量全袋検査によって安全性が確認されているにも関わらず、市民

からも敬遠され市外への取引量も激減した。このような中、地震、津波による災害や原発事故の影響による風評被害を克服し、フラガール



映画「喜びも悲しみも幾歳月」の舞台となった塩屋埼灯台



福島県立勿来工業高校のフラ同好会の皆さん



スパリゾートハワイアンズ・ダンシングチームリーダーのモアナ梨江さん

ルと共に力強く立ち上がるために企画したのが「Iwaki Laiki」だ。同市はフラガールズ甲子園が開催されるなどフラ文化が浸透し、フラダンスが盛んに行われている。「Iwaki Laiki」は、そのフラと、映画「喜びも悲しみも幾歳月」の舞台となり、被災沿岸部に希望の光を照らす「塩屋埼灯台」などをデザインした米袋に、いわき産コシヒカリの上白米を袋詰めしたものだ。鮮やかな米袋は、一見するとおコメとは見えない斬新さ。



▶東京ドームでPRするフラガール

つこの山はひとつの家族」の精神で乗り越えていきましょう」と熱いメッセージを寄せている。「Iwaki Laiki」のPR活動もそのフラガールを中心に積極的に展開中だ。東京ドームでは、読売ジャイアンツや中日ドラゴンズの選手にフラガールが「Iwaki Laiki」を贈呈したほか、いわき市長が東北楽天ゴールデンイーグルスの今江敏晃選手に「Iwaki Laiki」をプレゼントした。昨年9月には、同市瀬戸町の田んぼで「Iwaki Laiki」をPRするイベントもあった。



▶いわき市長が今江選手にプレゼント

一昨年10月から市内の量販店、観光施設等で取り扱いが始まり、販売も順調に推移。いわき地域の恵み安全対策協議会によれば、販売開始後、約15ヶ月で5キロ8万袋(約400ト)の販売数量を達成した。

コメ離れが進む若い世代、特に20〜30歳代の主婦層から「パッケージデザインがかわいい。おコメも美味しく頂きました」との評価を受けたという。「いわき産米はもともとおいしい米だ。少しずついわき産米のイメージが回復し、おいしいいわき産米を求める消費者が増えてきているのではないかと、関係者の期待も大きい。



▶稲刈りをするフラガール